



さとやま 2023年 春号 (通巻162号)

■発行 特定非営利活動法人うしく里山の会
〒300-1212 茨城県牛久市結束町489-1
tel 029-873-8552 fax029-873-8552

■事務局 牛久自然観察の森内
tel 029-874-6600
<http://ushiku-satoyama.org/>
■編集 木谷昌史

さとやま

～春号～
No.162

特定非営利活動法人うしく里山の会 広報誌

1. 表紙 (ヤブレガサ)
2. お知らせ
- 3-4 プロジェクト活動報告
5. 春の野山で見られた植物
6. 裏表紙 (開花するカタクリ)

事務局からのお知らせ

第19回通常総会議案書送付のお知らせ

事務局より第19回通常総会の議案書を郵送させていただきました。今年度は5月20日(土)9時から牛久自然観察の森ネイチャーセンター事務室での開催を予定しております。なお昨年に引き続き書面表決も行なっております。つきましては大変お手数をおかけいたしますが総会資料をご確認の上、同封いたしました返信ハガキに総会への出欠を記載いただき返送していただくようお願いいたします。

結束町みどりの保全区

「エコアップ」作戦参加者募集のお知らせ

牛久自然観察の森に隣接する牛久市結束町の「みどりの保全区」で行っている森林維持管理作業「エコアップ作戦」では、地域の皆さんの協力のもと、下草刈りや除間伐、風倒木の処理等を行っています。

去年は、好天に恵まれたこともあり林床の下草刈りを中心に作業を進めることができました。定期的に保全作業を行なっている箇所はもちろん、勢力を広げるアズマネザサを少しだけ押し戻す作業も行えました。春、林床にはアマドコロやヤマユリ、キンランもたくさん見られるようになりました。今年度も引き続き、安全に活動をできればと思っています。

5～7月は下記の通り5回の実施を予定しております。雑木林の景観維持へのご協力を引き続き宜しく願いいたします。

活動日：5月11日(木)、25日(木)
6月8日(木)、22日(木)
7月13日(木)

時間：9時～11時

集合場所：ネイチャーセンター 横の倉庫前

参加希望の方は：活動日の1週間前までに事務局までご連絡ください。



シラヤマギク



エビネラン



スイバ



コメツブツメクサ



ウツボグサ



タチツボスミレ



オドリコソウ



ハナイカダ



ウグイスカグラ



ヘビイチゴ



ギンラン



エビネラン



ジュウニヒトエ



ケツネノボタン



タケニグサ



シロバナタンポポ



ワレモコウ



サワフタギ



キランソウ



ワニグチソウ

牛久自然観察の森指定管理者
一般団体ガイド報告

金久 由美

4月16日（日）に世田谷区から園児と親子16組53名で来園下さり、春のガイドを楽しみました。

初回の2020年は、牛久市内でサツマイモ掘り体験と森のガイドの内容で来園。（今年で継続4年のご利用）その後、観察の森を気に入って下さり、茨城の農産物の収穫体験を取り入れ翌年2021年からは女化でのタケノコ掘りと観察の森の自然体験とを春と秋の年2回、予約・利用下さっています。

今回のご来園では、2回目、3回目参加リピーターのご家族もいらっしゃり、去年の秋に虫取り体験をしたお友達は、「バッタがいないよ」と虫取り網をお渡しする前に探していました。バッタが脱皮をして成長していく一覧写真を見てもらって、今、野原にいるのはどの大きさのバッタか手を挙げてもらうと、子どもたちは真ん中くらいの大きさのバッタを示しました。正解は、春に卵から孵ったバッタの大きさは1cm。ほ〜っと声が聞こえました。「1cmの大きさのバッタを見つけるには、どうしたらいいかな？」の呼びかけに野原に広がってきました。センター前のビオトープでは、アズマヒキガエルのオタマジャクシの多さに驚き、カエルクイズを楽しみました。

「都内では道もアスファルトで覆われ、なかなか自然体験ができる環境がないとの事で毎回、大変好評の企画です」と伺いました。これからも森の魅力を提供できるよう精進してまいります。



参加者が描いた絵

雑木林応援隊
ムジナとタケノコ

雨宮 廣之

里山の会の発足当時、自然観察の森の外でも活動を・・・と言う声が出て、森周辺の結束に放置された林の草刈りをしようとなりました。

当時の結束町の実力者に許可を取り荒れ放題の林に手を入れていきました。整備する中で、隣の孟宗竹の竹林（昔、東京の市場に家族で筍を出荷していたが、作業が大変なため、貸し筍農園に切り替えた）の一角にあった、全く日が入らない竹林を整備して欲しいと連絡が入り、その人経由で、竹林の持ち主から許可を頂き、その竹林の整備もする様になりました。

以来十数年、現在私たちが季節になると竹の子を掘り、竹炭の材料にしている竹林の経緯です。「竹林は傘をさして歩ける程度の間隔を・・・」という言葉があるそうですが、それに近い状態になったのは最近のことです。一見良さそうですが、見る人が見ると、まだまだ、な状態でしょうね。

もともとムジナと名付けたのは、戦後のこと、結束の親父さんが結婚式（うる覚えです）からの自転車での帰り道、今のムジナで自転車を止めて一服していると荷台に置いたお土産から何やら音がしたので、振り返ってみるとムジナがお土産を探っていた・・・と言う話を聞いたので、皆で相談して決めた名前です。当時は今の結束町の道は無く、ムジナの林の中の細い道を通っていたとの事です。（この道の跡は今も有ります）だいたい、ムジナとは何ぞや・・・と言う事になりますが、アナグマか、はたまたタヌキなのか。まあロマンがある話なのであの林にはピッタリな気がします。以来十数年、美味しいタケノコを食べられている訳ですが、今年は本当に早く出ています。例年の今どきは、すり足で探して探しているのですが、今年は目で見つける事が出来ます。

先日の活動日に皆でタケノコ掘りを楽しみました。老々男女が腰の痛みをおして掘ったタケノコの写真を見て下さい。某スーパーで、一本二千元弱の値札を見た時は驚きました。皆で掘ったタケノコはお宝だった・・・四月初めで旬の始めの話でした。

